

ズサンな個人情報の管理

昨年12月26日に、福島県岩代町の全町民約九六〇〇人分の個人情報を入れた磁気テープが盗まれるという事件が発生した。岩代町がデータ管理を委託しているコンピュータ関連会社の車から盗まれたそうである。このテープには住民基本台帳ネットワークに搭載された11ケタの住民票コード、住所、氏名、性別、生年月日のほかに、戸籍、介護保険の有無、選挙権の有無、国民年金の有無など、実に15項目にもわたる個人情報に記載されていたという。

「O. 1・2」のコラムで指摘してきたように、「住基ネットのセキュリティ上の欠陥」を事実をもって証明した。個人データを役所の外に持ち出せば情報が漏れる危険性がきわめて高くなるにもかかわらず、車に入れて放置するということは、まったくズサンな管理としかいいようがない。

しかも岩代町と同様に大半の自治体でコンピュータ処理業務を民間業者に委託しているのが現実。このような個人情報の漏洩事件は他の自治体でもいつ起きても不思議ではない。

住基台帳データ盗難

福島・岩代町業者の車から全9千600人分

福島県岩代町の全町民約9600人分の住基基本台帳のデータを入れた磁気テープが盗まれたことが26日、分かった。これは住民基本台帳ネットワーク(住基ネット)の基となるデータで、町がネットの管理委託している情報処理会社エフエム(本社・福島県郡山市)福島支店の分室駐車場で26日、社員ライオンが車上荒らしに遭い、テープを盗まれた。エフエムはテープを盗まれたという。福島県は窃盗の疑いで調べている。

岩代町によると、盗難したバックアップ用テープは26日にエフエム社からテープが入ったジューンミンに保管された。26日午、ケースには「岩代町」と後2時のハンシシステムというシールが貼ってあった。テープはエフエム社に保管されていた。同社は「テープは盗まれた」として、町に対して、同社は「社内でも暗号本が入っていた。同社は「社内でも暗号本が入っていた。同社は「社内でも暗号本が入っていた。」と語っている。

「素粒子」筆者交代します

コラム「素粒子」の筆者が年明けの1月4日から代わります。2年5カ月間担当してきた高橋誠治(高橋誠治)に代わって河谷史夫(河谷史夫)が執筆します。

河谷記者は45年生まれ、70年入社。社会部、企画編集を経て編集長から現職。92年9月から94年12月まで月刊「素粒子」を担当。94年4月から95年12月まで編集長を務めました。著書に「朝の光」(二二二)、「素粒子」(元永)など。

月刊「素粒子」コラム「素粒子」が2002年4月1日付で代わります。河谷記者は45年生まれ、70年入社。社会部、企画編集を経て編集長から現職。92年9月から94年12月まで月刊「素粒子」を担当。94年4月から95年12月まで編集長を務めました。著書に「朝の光」(二二二)、「素粒子」(元永)など。

住基ネットのセキュリティ上の欠陥を事実をもって証明した。個人データを役所の外に持ち出せば情報が漏れる危険性がきわめて高くなるにもかかわらず、車に入れて放置するということは、まったくズサンな管理としかいいようがない。

法学セミナー (日本評論社)
住基ネット訴訟の記事・論文が掲載

2月号

- ・住基ネットに反対する 福岡訴訟の経緯 — 上脇博之氏

1月号

- ・語り継がれる「平和の景色」 — 弓削達氏
- ・11月1日第一次訴訟第1回口頭弁論と記者会見
- ・私が住基ネットに反対する理由 原告意見書全文 斎藤貴男氏

これにたいして岩代町当局は、11ケタの住民票コードを変更すれば安全と言う。だが住民票コードを変えても変更履歴が残るのは歴然としている。どこが安全というのだろうか？

個人情報の管理、委託業務のありかたは、住基ネットシステムの根本的欠陥を実証している。にもかかわらず「セキュリティには万全を期している」とうそを言ってきた総務省は、国民にたいして責任をとるべきではないか！

こんな無責任な状況では、12月26日に住基ネットからの離脱を決めた、東京・国立市につづいて離脱する自治体が増えるのは当然。今こそ住基ネット廃止の声を大にすべき時だ！